

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム あいこく 2F	評価実施年月日	平成21年 10月 26日
評価実施構成員氏名	大山瑞恵 宮本真浩 後藤千春 堀合政子 平田麻美 門脇誠子 佐々木弥寿子 佐藤亜紀 管野きわ子		
記録者氏名	大山 瑞恵	記録年月日	平成21年 11月 2日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>職員全員で作り上げた理念「自分らしく笑って暮らす明るいホーム」に沿った個別ケアに取り組んでいる。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>勉強会や職場内研修で理念について考える機会を設けている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族には書面で報告したり、面会時に話をし理解を得られるように努めている。運営推進委員会で理念について報告を行なっている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>毎年行なっている夏祭りのボランティア(町内会の方)や入居者や犬の散歩の時に近所の方と挨拶や話をする機会が増えている。ホーム裏の畑の草取りや野菜の収穫等も入居者と共に行なっており、近所との交流は多くある。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の月1回のゴミ拾いに職員と入居者が参加している。町内会の運動会やお祭りにも声を掛けて頂いており、入居者と共に参加している。小学校から運動会や学芸会の見学の誘いがあり参加している。町内会や近所の人々の訪問や山菜等の差し入れがある。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員会で町内会のつながりが出来、夏祭り等の行事や畑の手入れを手伝って頂いている。110番の家と介護相談のステッカーを町内会の回覧板に貼らせてもらっている。運営推進委員会の中で町内会や家族から話を聞き、GHあいこくで出来る事を探している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>外部評価の結果を基に全職員で改善に取り組んでいる。</p>		
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進委員会に参加された委員や家族の方から出た意見や助言等を取り入れ、サービスの向上に努めている。</p>		
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>包括支援センターにホームへ行事等の案内を郵送しており、夏祭り等に参加して頂いている。ホームに見学に来たりしており、普段から行き来する機会は持っている。</p>		
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>以前対象となりえる入居者がおり、講演会に参加したり全職員がDVDを見る機会があり、権利擁護に関する知識を知る機会が持てた。</p>		
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止に関する講演会等に参加したり、勉強会で虐待についての知識を全職員が理解出来るように努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>十分理解して頂けるよう時間をかけて説明を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者が意見や不満等を外部者に表せる機会を作っていないが、苦情や意見・要望があった時はすぐに改善するように努めている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>月1回新聞を作成し、出納帳のコピーと共に郵送している。家族面会時や必要時には健康状態やホーム内での生活について口頭や電話、メールで報告している。職員の異動があった時は新聞に掲載し報告の代わりとしている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情相談窓口を設置し、担当の職員も決めている。家族には専用の用紙を郵送し、匿名での苦情相談が出来るようになっている。運営推進委員会で参加した家族から意見等があった時は全家族に郵送にて報告を行なっている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>各種会議の時に職員の意見を聞いている。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>ほぼ毎日フリーの勤務者がいるシフトを作成し、個別に入居者と関われるようにしている。夜間は待機者を決めており、急変時や緊急時に対応できるようにしている。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>入居者に影響がないよう、職員の異動は必要最低限にしか行っていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部での研修に参加する機会は多い。必要な資格取得の為に資格取得奨学金制度がある。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	職員の交換研修や各GH協議会・協会の研修に参加している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	4週7休と月に1度連休が入れられるようなシフトを作成している。フリーの職員がいる日は一人30分ずつ交代で休憩を取るようにしている。	○	休憩室の確保
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得や勤務状況による正職員への昇格がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前に面会に行く等本人から聞く努力はしているが、細かな所や分らない所は家族やケアマネージャーから聞き、情報を得ている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の思いや訴え・要望等を聞き、家族との信頼関係が築けるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者一人一人のケアマネージャーと共に必要な支援を考えている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前にホームに見学に来てもらっているが、現時点では難しい。入所後はなるべく多く家族に面会に来てもらえるように頼んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の得意な事や好きな事を活かせるよう努めている。日々の関わりの中で支え合う関係を築いていきたい。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会時に心身状態やホームでの生活の説明を行ない、家族に希望や意見・要望等を聞き、家族と共に支えられるように努めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	月1回の新聞にホームの行事予定を掲載したり、夏祭り等大きな行事の時は家族に連絡し一緒に参加してもらいより良い関係が築けるように支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所後も本人の馴染みの場所へ出かけられるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士のコミュニケーションが円滑に図れるよう職員が間に入り橋渡し役を行っている。台所や居間で食事の準備や家事の手伝いを行なってもらっている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後は関係が途絶えてしまう事が多いが、夏祭りに来てくれる家族もいるので、関係が途絶えないようにしていきたい。	○	退所後も関係が持てるようにしたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意向を把握し、ケアプランに反映できるように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人との会話の中からや家族から情報を聞く等し、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活の中で観察を行ない、心身状態の変化があった時は適切な対応がとれるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当職員と介護支援専門員が中心となり、入居者の状況把握に努め、より良く暮らせるようケアプランに反映できるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月毎にモニタリングを行なっている。状態変化等必要時には見直しや変更を行ない、1人1人の心身状態に合わせたケアプランを作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	それぞれの個人記録には、本人の発言やその時の様子が分かるように記入し、スタッフ間で情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制や往診を活かし、受診や入院の負担が軽減できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事を行う時は町内会や学生ボランティアに声を掛け、協力をお願いしている。小学校の運動会や学芸会に見学に行っている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	二ヶ月に一度理美容ボランティアに来て頂き、外出困難な方や希望者の散髪をお願いしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	包括支援センターの職員に運営推進会議に参加して頂いている。ホーム見学に來たり情報交換等行なっており協力関係は築けている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に二回の訪問看護師による健康相談やかかりつけのドクターによる定期的な往診と必要時には24時間連絡できる体制をとっている。本人や家族が希望する病院や医師に診てもらっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居者一人一人の主治医が認知症の診断を行なっている。	○	協力医療機関である脳神経外科との協力体制を強化したい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携体制導入により、月二回の健康相談と訪問看護ステーションに24時間連絡できる体制がとれている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は定期的に職員が面会に行き、本人が安心できるよう対応している。家族や病院と連絡をとりながら情報交換や相談、退院に向けた準備を早期に行なえるように努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	方針は作成しており、職員・家族・かかりつけ医で共に共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期と診断された入居者がおり、職員・家族・かかりつけ医と共に支援に取り組み準備を始めている。ホームで出来る事を早期に見極め、本人が安心して日々をより良く暮らせるようチームで取り組んでいる所である。	○	終末期を迎えた時本人や家族が安心して過ごせるよう、医療機関との連携や協力体制を強化していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>これまでの生活環境や支援の内容の情報提供に努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>月一回のカンファレンスで全職員が参加し個々に合わせた対応について話し合っており、一人一人の尊厳に合わせた対応を心掛けている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人一人の理解力に合わせた声掛けや対応を行ない、本人が納得して生活できるように支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>昨年よりは入居者優先を心掛け、その日どのように過ごしたいか聞き本人の希望にそった流れで生活できるよう努めているが、その日の職員の勤務状態等により職員の都合が優先になってしまう事がある。</p>	○	<p>入居者に合わせた流れで生活できるようさらに努めていく。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>職員や家族が希望者を行き慣れた美容室へ連れて行っている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>全入居者が行なっていないが、一人一人の得意な事を活かせるよう支援している。</p>	○	<p>無理強いしない程度に声掛けを行ない、食事の準備や後片付けを行なっていきたい。入居者が楽しんで行なえる雰囲気作りに努める。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医師や病状による制限の無い入居者は職員と共に買物に出かけ、好きな物を購入し楽しんでもらっている。制限がある入居者がおやつ等購入した時は職員が預かり少しずつ渡している。ホーム内は禁煙となっており、現在喫煙する入居者はいない。行事の時や外食時等飲酒する機会を設けている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	毎日排便チェックを行っており、一人一人の排便パターンは把握している。一人一人の排泄パターンに応じたトイレ誘導を行ない、気持ちよく排泄できるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の希望する日に入浴できるようにしているが、時間帯は決まっている。	○	入居者が希望する時間帯に入浴できないか職員の勤務時間や体制を検討する必要がある。又、入居者一人一人がいつ入浴したいかを知る機会を作っていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	無理強いしない程度に日中の活動(体操や散歩等)を促し、気持ちよく休息できるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人一人の身体状況に応じながら裁縫や食器洗い、配膳、洗濯物たたみや掃除等職員と共に行っており、役割や楽しみ事になっている。定期的買い物や外食等外出を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる人には渡しているが、その他の方は家族から了解を得てホームで管理している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	昨年よりは外出する機会は増えてきているが、ホームでの生活が主である。	○	外出の機会をさらに増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者の行きたい所へ外出を行いたいが、1日フリーの勤務者が少ない為、外出の機会は少ない。	○	シフトをみながら勤務者の多い日に外出の予定を立てたり、一階職員の協力を得ながら行なっていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	知人や家族に手紙を書き職員に郵送を頼んでいる。家族や知人から電話があった時は出て話をしている。本人から電話をかけたいという訴えはほとんどないが、訴えがあった時は対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は特に決めておらず、家族や知人の方に好きな時間に来て頂けるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行なってはいない。身体拘束マニュアルを作成し全職員に回覧している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室や日中玄関に施錠はしていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中居間に職員が一人は必ず居るようにしており、居間から離れる時は別の職員に必ず声掛けし居間に居る事を確認してから離れるようにしている。入居者のプライバシーに配慮しつつ所在や安全確認を行なっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	裁縫道具を使用する時は職員が必ず付き添い、使用後は針の数の確認を行なっている。ハサミやカッターを使用する時も危険がないよう職員が付き添っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時マニュアルを作成し全職員に回覧している。定期的に勉強会で一人一人の事故の可能性とその対応策について話し合っている。事故発生後は早急に事故報告書を作成し、家族に事故の原因とその対応策について報告を行なっている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時マニュアルは作成し全職員で回覧しているが、定期的な訓練は行っていない。	○	定期的な訓練を行なう機会を作りたい。全職員が応急手当等に関する講習会に参加する機会を作っていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災マニュアルを作成し全職員に回覧している。年二回避難訓練を行ない、町内会の方や近所の方にも参加して頂いている。運営推進会議の時にも災害等についての話をしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	起こりえるリスクについてはカンファレンス等で全職員で話し合い、家族には内容を報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタル測定を行なっている。体調変化やいつもと異なる症状が見られる時は他の勤務者にも報告し、必要時はかかりつけ医に報告し、異変の早期発見に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人が服薬している薬を把握する為、調剤薬局の薬剤師から薬の勉強会を行なってもらった。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分や食物繊維を多く摂ってもらえるよう献立を考えている。適度な運動や体操も取り入れ、便秘の予防に努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	昨年よりは一人一人の状態に合わせた支援を行なっているが、毎食後はできていない。	○	全入居者に支援していきたい
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量や栄養バランスやカロリーを考えた献立を提供している。食事量が少なかったり食事摂取困難な時は補食(バナナ・ゼリー・カステラ等)を用意し食べてもらっている。水分制限のある人には職員が計り渡している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染予防マニュアルを作成し、全職員で回覧し予防に努めている。食品衛生講習を受講し、一階・二階共に食品衛生管理者がいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	衛生マニュアルを作成し全職員で回覧している。食中毒が流行する時期に勉強会で再確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関周りに花を植えたり、スロープを設置している。玄関前に町内会の方から寄付して頂いた木製のベンチで談笑したり、ホーム裏の畑で近隣の方との交流がある。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	食卓や事務所に花を生けたり、居間に季節毎の飾り付けを入居者と共に行なっている。		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	食卓やソファで気の合った入居者同士で談笑したり、共に塗り絵やドリルを行なう等くつろげる空間作りに努めている。		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家族に本人が使い慣れた物や馴染みの物、希望する物を持ってきてもらい、安心して過ごせるように配慮している		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	空気清浄機を廊下・トイレ・居間に設置し、臭いや空気の澱みに気をつけ、定期的に換気を行なっている。特に冬季は乾燥しやすい為、湿度や温度をみながら暖房の調整や換気、加湿器にて調整を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりを廊下やトイレ、階段に設置し、二階へ上がる昇降機も設置している。入居者に合わせ、食卓テーブルと椅子を5cmずつ切っている。立位時ふらつきがみられる入居者にはベット横に立ちアップという介助具を設置し転倒防止に役立てている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人一人に合わせた対応を心掛けている。変化が見られた時はカンファレンスで話し合いを行ない、状態に合わせた対応を検討している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダに長椅子を置き日光浴が出来るようにしている。プランターに野菜(トマト・春菊)を育て、入居者に収穫してもらっている。</p>	



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="checkbox"/> ①毎日ある <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ③たまにある <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族 <input checked="" type="checkbox"/> ②家族の2/3くらい <input type="checkbox"/> ③家族の1/3くらい <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・外食や買物・銭湯など、希望があればできる限り対応している。
- ・一大行事の『夏祭り』では、必ず近隣町内会の方々と学生ボランティアに参加をお願いし協力を得ている。
- ・町内会の行事や専門学校の学校祭等に、こちらから参加してお互いの交流を図っている。
- ・ホームの防災訓練の際には近隣住民や町内会の方々に参加をお願いし、非常時の避難・誘導に協力を得られる体制作りをしている。